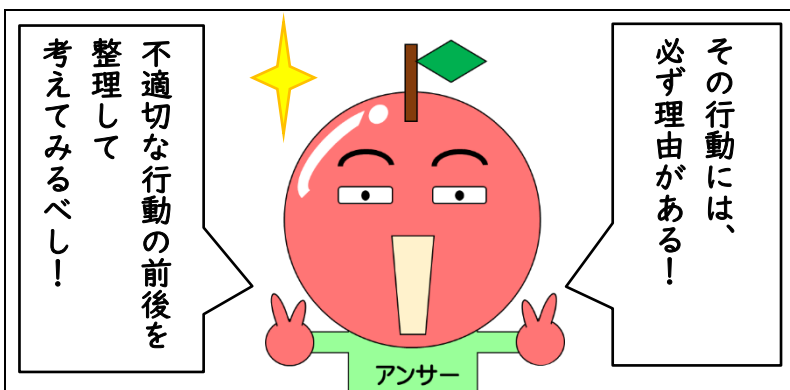
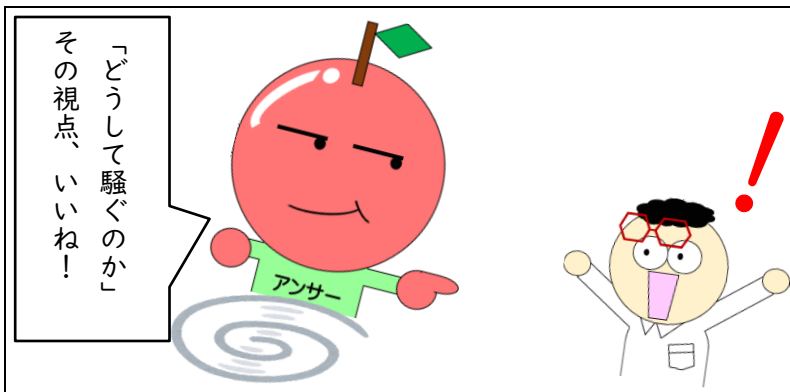
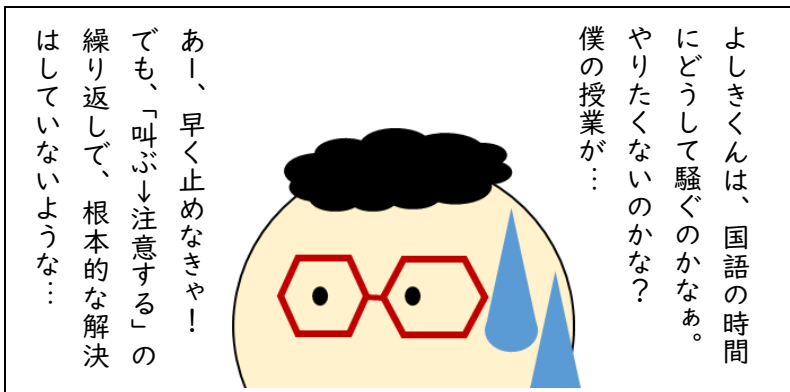
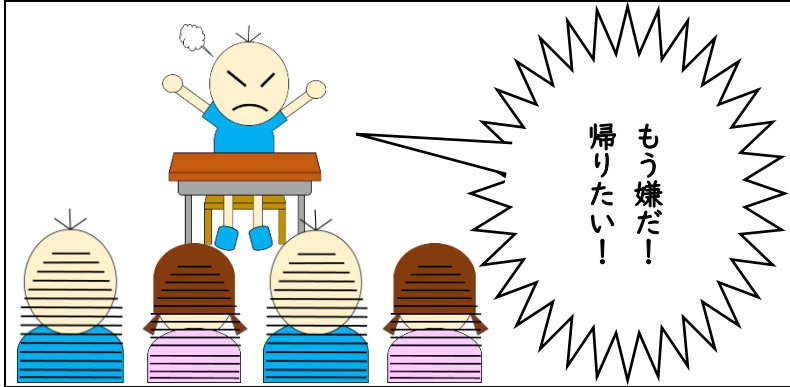


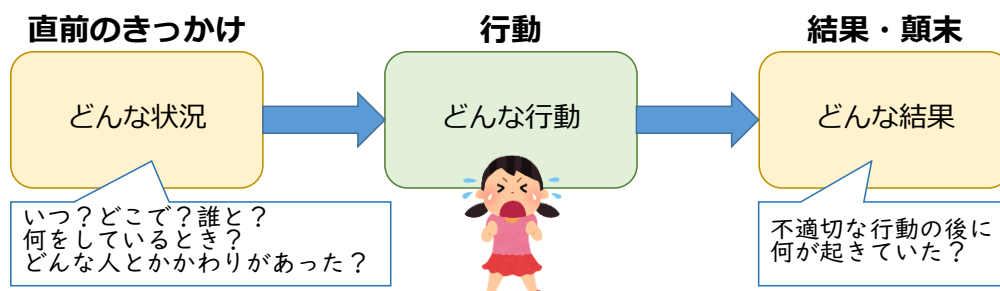
Q22. 子供の不適切な行動にうまく対応できません。どうしたらよいのですか？



行動の「理由」を考える

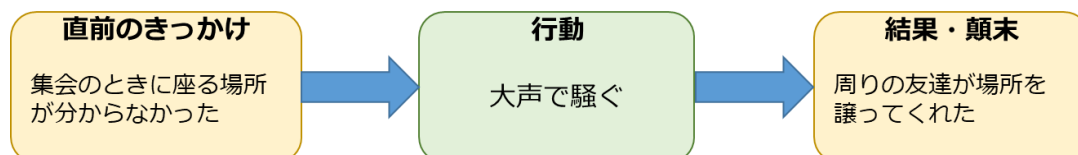
- 不適切な行動への対応ばかりに気を取られず、その前後に何が起きているのか？という事実を明らかにして、状況を整理してみましょう。

指導者は、子供の「叫ぶ」「騒ぐ」「飛び出す」「寝る・伏せる」などの不適切な行動ばかりに目が行きがちで、どうしても対症療法的な指導になってしまいます。まずは、「なぜ、そのような行動をとっているのか？」という視点に発想を転換し、不適切な行動の前後に何が起きているのかを明らかにして、行動の理由を考えてみましょう。



このように整理してみると、「あれ？私のかかわり方が、子供の不適切な行動につながっていた…。」ということも少なくありません。行動の前後の対応を変えることで、子供の行動が変わることがあります。子供のせいにはせず、「子供を取り巻く環境やかかわり方をまず変えてみよう！」「自分のかかわり方を見直すチャンス！」と前向きに捉えて、子供と向き合しましょう。

事例をとおして 集会になると必ず大声を出して騒いでいたひとみさん（仮名）



状況を整理してみると、騒いでいるときはひとみさんにとって「困ったことが起きているとき」「相手に何を言えばよいのかが分からないとき」だと分かりました。「友達に『ここに座ってもいい？』『私も座りたい』と言えいいんじゃない？」等と適切な行動を求める前に、「大声で騒ぐ」という形でしか表現できなかったひとみさんの辛かった気持ちをまず受け止めたいと思いました。ひとみさんの思いをじっくり聴く時間を確保し、集会への参加方法を一緒に考えました。「座る場所を担任と事前に確認する（写真や会場図等）」ことに決まり、その方法を試したところ最後まで落ち着いて参加することができました。

ひとみさんは、この成功体験のおかげで、集団活動に自信をもって参加できるようになっていきました。

【文献】藤原義博・平澤紀子 編著（2011）：教師のための気になる・困った行動から読み解く子ども支援ガイド。学苑社。
鳥取県教育委員会東部教育局（2014）：元気の出る特別支援学級担任のための手引き（実践編）。

よく一緒に読まれている Q

Q20 「どうしても子供に援助し過ぎてしまいます…。」

[目次に戻る](#)